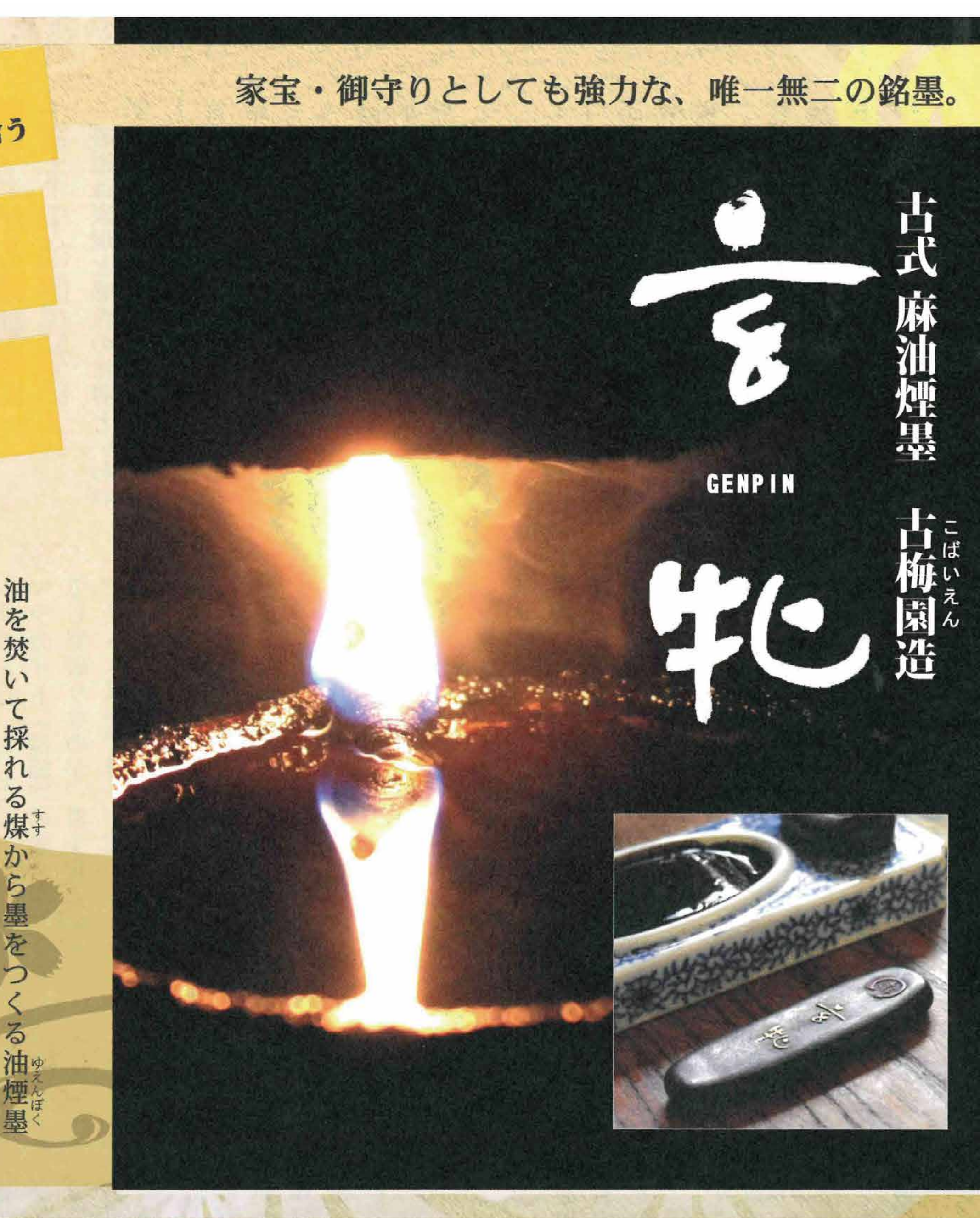
家宝・御守りとしても強力な、唯一無二の銘墨。

道 精神統一を深め 内なる神性に向き合う

気 邪気を祓い 場をととのえる

癒 無へといざない 心を満たす香り



古式 麻油煙墨 古梅園造 玄牝

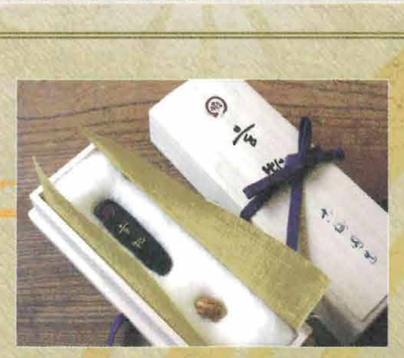
油を焚いて採れる煤から墨をつくる油煙墨法。これを四百年以上前から受け継いできた日本最古と言われる製墨匠が「古梅園」です。六代目の元泰によって造り上げられ、皇室に納めていたという油煙墨法の麻墨を、このたび三百年ぶりに復元。「まほろば」の宮下周平氏によりさらなる設計が施され、前代未聞ともいえる銘墨『玄牝』が完成しました。

“無”の静寂、生命の躍動を生み出す 銘墨『玄牝』！

錬金術を思わせる独自の商品開発で厚い信望が寄せられる「まほろば」宮下周平氏プロデュースによる銘墨『玄牝』。

後世まで継ぐ価値のある銘墨は、家宝として家々に継承されるといいます。『玄牝』は、結界場ができるほど強力で霊妙なエネルギーを宿すため、書や写経にはもちろん、家族や家の御守りとしても働いてくれる、古今無二の傑作です。

※『玄牝』…「老子道徳経」に由来し、こんこんと湧き出でて尽きない湧水のように、あらゆるものに命を吹き込む力を想起して命名されています。


訶子の実と一緒に桐箱に収められています。

古式 麻油煙墨『玄牝』アップ

染司よしおか による古代草木染で包まれています。

「染司よしおか」５代目当主 吉岡幸雄氏。

『玄牝』を包む麻布は、「染司よしおか」の５代目当主・吉岡幸雄氏が、訶子（アルラ）の実で染めたもの。麻も訶子も、祓いと魔除けの力を宿すことで重宝されてきた自然素材です。

江戸期の京都に始まった「染司よしおか」は、宮本武蔵との逸話で知られる「吉岡流一門」の系譜に連なります。吉岡幸雄氏は、日本の伝統色をすべて植物染で再現する国宝級の匠。東大寺や薬師寺などの伝統行事の衣装を手掛けるほか、国文学、国宝修復など多方面の貢献が認められ、京都府文化賞功労賞、菊池寛賞、グッドデザイン賞など多くの賞を授与され、書籍も多数著されています。

吉岡氏の手による希代の麻布、ぜひ御守り袋としてご活用ください。

お客様の声

銀河観音の依り代「玄牝」

高杉嵯知さん著「奇跡の銀河観音」KADOKAWA出版

ゆるゆると墨をすり…。現在、私の描く銀河観音はすべて、この墨で描かれています。縁あってこの墨が世に出る前に授かりましたが、すぐには使えずにアトリエで数ヶ月共に過ごしました。そして、ある日突然その墨が使えるようになり…。

今思えば、墨と私との間で次元調整していたのが分かります。

私自身が墨の持つ波動に導かれ一心同体となり、同時に銀河の中心のエネルギーを伝える作品「銀河観音」と墨との感応が始まったのです。この事は私のアーティスト人生最上の喜びとなりました。この墨が世に出る奇跡に感謝します。

水墨観音画家　高杉嵯知さま

※商品の体感には個人差がございます。

海外の博物館にも展示されています。

『玄牝』を展示しているのは、科学的根拠に基づいて多角的に麻を紹介する麻博物館（アムステルダム＆バルセロナ）。同博物館を運営するヘンプフラックス社はヨーロッパ随一の規模を誇るヘンプ農場と加工工場を持ち、農業資材、建材、食用・医療関係など多岐に渡る製品の製造・販売に携わっています。『玄牝』の価値は、世界の麻産業を牽引し、地球の環境保全に大きく貢献する企業にも認められています。

写真は、ベン・ドロンカーズ氏（ヘンプフラックス創始者）と『玄牝』開発者の宮下 周平氏

古式 麻油煙墨　玄牝（奈良「古梅園」謹製・桐箱／麻布入り、訶子の実付）

■108,000円（本体価格100,000円＋税）

原材料：麻油、シュンガイト鉱石、ベンガラ、ラピスラズリ、マラカイト、鹿・牛膠、天然香料（龍脳、楠、沈香、白檀、乳香、五加皮、丁香、香附子、桂皮、薄荷、らいこう、没薬、甘草、味蕾香、訶子）、エリクサー水
麻布：古代草木染司・吉岡幸雄氏による「訶子（アルラ・ミロバラン）」染め

サイズ：桐箱／縦257×横90×高さ48（mm）、墨／縦80×横23×厚さ8（mm）

※麻と綿の混合綿が桐箱に敷き詰められています。

※添付の解説書は、阿波の麻紙を以て印字され、麻紐で巻いております。

※鉱石が練りこまれているため、陶器製または硯面の固い硯のご使用をお勧めします。

※伝統工芸品で高価格商品のため、返品・交換を承ることができません。ご了承くださいませ。

お届けにお時間がかかる場合がございます。

■商品のご注文・お問い合わせは、お電話やＦＡＸ・ＷＥＢ等にて承ります。　20161111-B

ご注文・お問い合わせ フリーコール
TEL：0120－15－1846（TEL受付　9時～21時）
FAX：0120－57－1428（FAX　24時間受付）

右記時間帯は外部コールセンターでの受付とさせていただきます。平日 17：00～21：00／日曜・祝日 9：00～21：00
※コールセンターでお受けしたお問い合わせにつきましては、後日ご対応させていただく場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。

"元気の力"を暮らしに生かす　自然に学び 自然に帰る
株式会社トータルヘルスデザイン

【税込 3,000円以上のご注文で送料無料】※イヤシロチ資材など一部除外商品がございます。除外商品および海外へのお届けにつきましては、実費送料をご負担いただきますようお願い申し上げます。

京都本社：〒619-0223 京都府木津川市相楽台9丁目1番1号
TEL 0774-72-5889／FAX 0774-73-3740

東京元気アップショップ（東京営業所）　〒105-0014 東京都港区芝3-4-11 芝シティビル7階
TEL 03-5444-3241
FAX 03-5444-3243

HPは トータルヘルスデザイン 検索 Click!

※プライバシーポリシーにつきましては、http://www.thd-web.jp/category/12.html をご参照ください。

※トータルヘルスデザイン様で「玄牝」取り扱い開始！詳しく取材していただきました。まほろばでも在庫ございます。店頭または、配達・発送ででお求め頂けます。

まほろばだより
No.4411 16-187 12/26

墨気

湧き上がる躍動感に上手下手は関係ない

書道は表現と感性の世界といわれます。上手下手よりむしろ、宇宙や人体にあまねく満ちている「陰陽の気（元気）」が書画の中で働いて、活き活きと躍動し、迫力を持っているかどうかを重視する。心を揺さぶるような墨色、躍動する気の表現を通じて真理を探究する。これを「気韻生動」や「墨気」といい表し、大切にしているといいます。

また、墨色は単なる黒ではなく、「すべての色彩を持ち、光を内包し、墨気を感じさせる無限の表現」「書き手の気合い」「硯・墨・紙の調和とともに筆をふるうことで立ち表れる、宇宙そのもの」のこと。真理に近づくための表現なのです。

『玄牝』はこの、書道の本質を追求して造られました。墨色としての黒の奥行きを一層際立たせるために練り込まれた、麻油の煤（墨）を基調に、シュンガイト（炭素の黒）、ベンガラ（丹）、ラピスラズリ（青）、マラカイト（深緑）の微粉末。なかでも型破りなのが、希少鉱物シュンガイト（世界で唯一、北西ロシアのカレリア地方でのみ採掘される）。開発者の宮下氏が「これを入手したことが『玄牝』開発の発端だった」と語るほど、重要なカギとなる素材なのです。

人も土地も浄化し癒す「気」と力のある墨

およそ天然とは思えない「フラーレン構造」（右画像1）と、癒しと抗サビのパワーを持つことで知られる鉱石シュンガイト。「低温で電気抵抗がゼロになる」超電導性の機能を有します。一方で、かつて太陽系の一部だった惑星の破片とも、巨大な隕石の残骸とも噂されるほど、ミステリアスな側面も。

「鉱物と植物を合わせた墨は、どんなだろうと想像してみた。それは歴史的にも存在していない。フラーレン構造が、墨色の上でどのような気を発するだろう」と興味深く感じた宮下氏。ある時、ここに合わせる植物こそ、麻にするべきだとひらめいたとか。古来伝わる日本の神髄ともいえる植物、麻。日本には、衣食住全般から神事まで、麻の成長蘇生・浄化力に支えられてきた悠久の歴史と文化があります。世界的にも医学・産業界がこぞって研究・開発を進めるほどの潜在能力を秘めた植物。「しかしどう混ぜればよいか…？」

古今唯一、前代未聞!? 『玄牝』ついに完成

この着想を可能にしたのが、油煙墨という最も古典的な製墨法。油を焚くことでとれる煤を墨色の原料にするもので、細かな粒子と、深みのある黒、強い光沢が特長の墨ができます。この古法を四百余年以上守り継いできたのが、日本最古と言われる墨匠・古梅園でした。

「それは、よろしいですね」

宮下さんが構想を打ち明けると、即答が返ってきたという。実は、遡ること三百年前、清から製墨法を学んだ六代目・元泰が、麻の墨を造り上げて皇室に納めていたという記録が残っていたのです。そこで、途絶えていた麻墨法を復元して『玄牝』のベースにしたとか。これも偶然ではなく、宇宙の粋な計らいかもしれません。

麻油で造墨をしたことを示す、当時の木型が今に残っている。

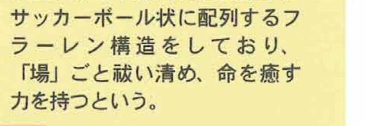
墨気を沸き立たせる素材と造り手、そして宮下氏だからこそできた『玄牝』。宇宙・自然・人それぞれが共鳴・呼応して発する「気」、漆黒の墨色から生まれる滲み、かすれ、濃淡。そのすべてをご堪能いただける唯一無二の逸品です。

書道、写経、水墨画などに、書法やジャンルを越えてご活用いただけます。言霊をより霊妙に発動し、画に魂を与え、私たちの清浄心をも養ってくれることが期待できます。場を祓い清める強力な御守りとしてもお役立ていただけます。

般若心経などの写経にお使いいただくのもおすすめ。言霊の力が増幅・共振する一体感を味わっていただけることでしょう。
※写真はイメージです。

墨気と浄化力に溢れる素材

1
シュンガイト鉱石は炭素原子がサッカーボール状に配列するフラーレン構造をしており、「場」ごと祓い清め、命を癒す力を持つという。


2
左から：ベンガラ、マラカイト（奈良産孔雀石）、ラピスラズリ

3
抗酸化力、生命の蘇生力、浄化力が極めて高いと、世界中で脚光を浴びる「麻」。その実油を使用。

香り

神人の和合、無我の境地へいざなう香り

硯で墨をすると、立ち込める崇高で奥深いオリエンタルな香り。『玄牝』に用いた「三五香全」は十五種類の天然香料を調香。邪気を払う魔除けとして提げることで知られる「訶梨勒」の薬香、訶子も含まれます。三五（麻柱）とは、高い所へ登る足がかり、足場の意味。墨をする毎に立ち込める、やわらかで凛とした気と香りが、空間を浄化して祓います。さらに精神の高み、無の境地へといざなうことでしょう。

三五香全

宮下氏の0－1テストによる配合と命名。そして京都府より「京都の香り」の依頼も請ける調香師・篠原康幸氏の手により絶妙に調香されています。

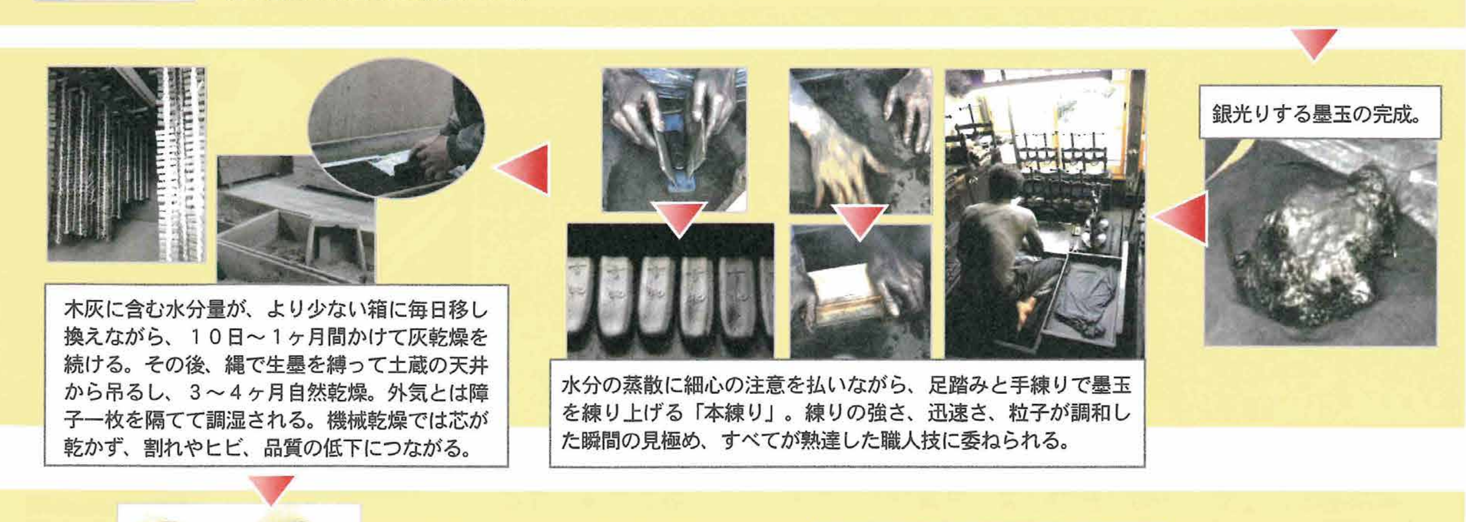
香名

1. 龍脳 2. 楠（木・精製）
3. 沈香 4. 白檀 5. 乳香
6. 五加皮 7. 丁香 8. 香附子
9. 桂皮 10. 薄荷 11. らいこう
12. 没薬 13. 甘草 14. 味蕾香
15. 訶子（アルラ・ミロバラン）

桐箱に忍ばせている訶子の実は、めったに手に入らない希少なもの。奈良の唐招提寺（とうしょうだいじ）を創建した鑑真和上が伝えて以来魔除けとして使われ、正倉院にも納められています。同梱の麻布で袋をつくり、御守りとしてお使いください。

『玄牝』ができるまで

厳冬の奈良。すべての工程が熟達した職人の妙技で成されています。


墨・煤・膠を妙合する仲介役に、浄・活水器『エリクサーⅡ』を通した水（表面張力値が低く、生命を蘇生化する力が強い）を使う。

早朝５時から始まる一番作業。湯煎する膠鍋に水と膠を入れて、上下に叩くように素早く攪拌する。

煤・鉱石・顔料・香料・膠を調合し、墨玉をつくる。時期により微妙に異なる湿度や粘性を調整するには職人の勘が要る。

200リットルの麻油を１週間かけて焚くと、わずか５キロのみの煤が採れる。効率やコストが優先される世の中でこの技法を守り継ぐ困難さは容易に想像がつく。

銀光りする墨玉の完成。

水分の蒸散に細心の注意を払いながら、足踏みと手練りで墨玉を練り上げる「本練り」。練りの強さ、迅速さ、粒子が調和した瞬間の見極め、すべてが熟達した職人技に委ねられる。

木灰に含む水分量が、より少ない箱に毎日移し換えながら、１０日～１ヶ月間かけて灰乾燥を続ける。その後、縄で生墨を縛って土蔵の天井から吊るし、３～４ヶ月自然乾燥。外気とは障子一枚を隔てて調湿される。機械乾燥では芯が乾かず、割れやヒビ、品質の低下につながる。

宮下氏による「まほろばの印、玄牝、古梅園造」の手描き。最先端技術ＵＶ加工で印字し、桐箱に絹の真田紐を結んで完成。

古都・奈良の街並みに佇む墨匠・古梅園。日本家屋の風情が漂う建物自体も、有形文化遺産に指定されている。